

国際会議参加報告

第 36 回国際軍事史学会大会の概要

岩谷 将

2010（平成 22）年度の軍事史国際会議は 8 月 29 日（日）から 9 月 3 日（金）にかけて、オランダ王国アムステルダム市で開催された。同会議は今回で 36 回目となる。

今回の会議には 37 ヶ国から 227 人が参加した。日本からは高橋久志・上智大学教授（日本軍事史学会会長）、岩谷・防衛研究所教官の 2 名が参加した。また、アジアからの参加は中国 7 名（うち 6 名が中国人民解放軍軍事科学院から、その他 1 名は北京大学から派遣）、インドネシア 3 名、韓国 2 名（人数順）であった。

本会議の共通テーマは「反乱と反乱鎮圧：18 世紀から現在に至る非正規戦」であり、34 のセッションが設定され、89 本の論文が提出・報告された。共通テーマである「反乱と反乱鎮圧」に関する研究発表については、正規の参加者による研究発表が 81 本、主としてオランダの大学院生による研究発表が 8 本、計 89 本の研究発表が行われた。これらの研究発表のほか、反乱鎮圧に関する近刊書を取り上げて議論するブックパネル、「海上における軍事革命：近代海軍史における動向と発展」と題したラウンド・テーブルが実施された。

今回は非正規戦をテーマに時代的にも地域的にも広がりを持った多種多様な研究発表が行われ、非正規戦が歴史的なテーマであるとともに今日的な喫緊の課題であることを改めて示す会議であった。会議においては、歴史的な遺産をいかに現在、あるいは次世代の教訓へとつなげるかという実際的な問題が問われた。

本会議はオランダ王立軍戦史研究所が事務局となり、オランダ王立軍の全面的な支援のもとで開催された。会議のみならず、現地研修、レセプションを含めて申し分のない運営が行われ、また開会式への国防大臣の出席、王宮博物館における参謀総長主催の歓迎レセプションなど、オランダ国防省・王立軍の軍事史研究に対する支持と熱意がうかがわれた。

2011 年の第 37 回国際軍事史国際会議は 8 月 28 日（日）から 9 月 2 日（金）まで、ブラジル連邦共和国リオデジャネイロ市の陸軍指揮幕僚大学で開催される。

（防衛研究所企画室情報発信調整官 兼 戦史部第 1 戦史研究室教官）